

朝日新聞 2012(平成24)年8月16日 ぶらりミュージアム
「美への憧れ、独特の気品生む—岡田三郎助の絵画—」



県立美術館

約70年ぶりに一般公開された岡田三郎助の《裸婦》(1935年)について、お客様から多くの驚きと称賛の声が寄せられています。

「昨日描かれたようなみずみずしい色にびっくりです」「肌のきめ、この美しさは例えようがないですね」「他県でもぜひ岡田展を開催して欲しい」などなど、会場で岡田の絵に対する熱い思いを聞いたたび、本当にうれしく、今なお私たちの心を打つ岡田芸術の魅力を

岡田三郎助の絵画

美への憧れ、独特の気品生む

改めて実感します。

お客様は、岡田の絵には独特の「気品」がある、と言われます。この気品はどこから生まれるのか。

もちろん岡田の優れた描写技術がありますが、それとともに、岡田の美しさへの飽くなき憧れが挙げられるのではないのでしょうか。

岡田は古今東西の様々な「美」について熱心に研究し、日本画や版画、彫刻などあらゆる技法に挑戦しています。技法を超えて、時代を経ても変わらない真の美しさを追求したい——。そうした彼の真摯な思いが作品に品格を与えているのだと思います。

(県立美術館学芸員 野中耕介)



「ぶらりミュージアム」は今回で終わります。



佐賀市城内1の15の23。電話 0952・24・3947。バス停「博物館前」下車、徒歩1分。開館は午前9時半～午後6時。休館日は月曜。

「少女読書」/1924年 /油彩・キャンバス/縦44.9㌢×横33.2㌢/県立美術館蔵/企画展「岡田三郎助—まぼろしの名画—裸婦、—特別公開—」で展示中。9月2日まで。観覧無料。